

島人の宝
豊かな海を
守る

石西礁湖自然再生ニュースレター

2009.8 Vol.11

石西礁湖

自然再生



石西礁湖自然再生行動指針

陸域対策

を作成しました。

石西礁湖自然再生協議会陸域対策グループは、これまでにグループで行ってきた議論をまとめ、協議会の各委員が全体構想に基づきそれぞれの立場で陸域対策(赤土流出防止対策の推進、水質汚濁物質の対策の推進)を実施していく際の指針として、「石西礁湖自然再生行動指針【陸域対策】」を平成21年6月26日に開催された第11回協議会で発表しました。

今後は、協議会や7月30日にスタートした地域委員会(仮称)等で、取組の実施者等と取組の状況や効果等について情報交換しながら、より多くの人たちを巻き込み、取組の充実を目指します。



▲陸域対策グループの議論の様子
(第11回石西礁湖自然再生協議会)

●具体的な行動

行動指針では、赤土流出防止対策、水質汚濁物質の対策について、それぞれ既存の取組及び課題について整理し、様々な具体的な行動が提案されています。

行動指針は、石西礁湖ポータルウェブサイト(<http://sekiseisyouko.com/>)の石西礁湖自然再生協議会→グループディスカッション→陸域対策からご覧いただけます。

▲石西礁湖北部のサンゴ礁

石西礁湖はいま シリーズ①

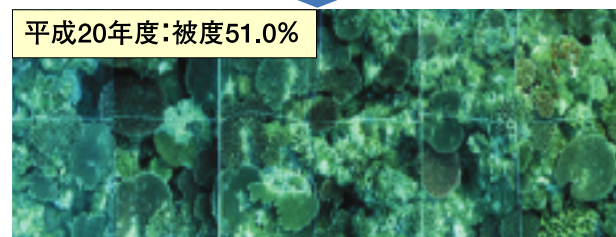
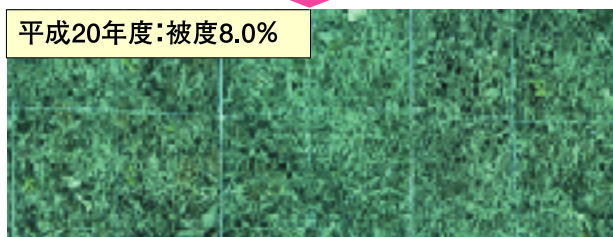
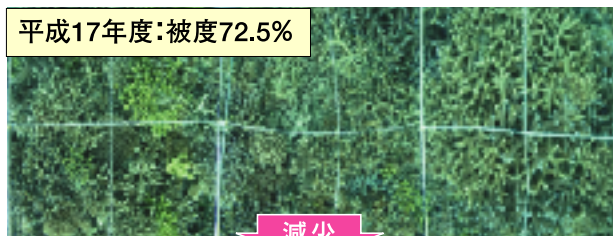
環境省では、石西礁湖内の31か所で、平成17年から毎年3回、海底の写真撮影し、その変化を分析しています。調査開始当時、海底を覆っている生きたサンゴの割合(被度)の平均値は約36%でしたが、20年度には約18%と、3年間で半分に減少しました。しかし、すべての調査地点でサンゴが減少しているわけではありません。石西礁湖の北側では、新しく加入したサンゴが成長して、徐々に被度が増加してきています。現在残っているサンゴを新たなサンゴ幼生の供給源として保全していくとともに、八重山の海をサンゴが棲みやすい環境に改善していくことが重要です。

サンゴは増えているの？ 減っているの？



サンゴ被度(%)
● 0~20 ● 20~40 ● 40~60 ● 60~80

▲各調査地点のサンゴ被度(平.20)



▲竹富島東(S30)

▲石西礁湖北礁(S27)

石西礁湖サンゴ礁基金のホームページができました。

自然再生の活動を支援するために、資金メカニズムグループが中心となって検討を進めている「石西礁湖サンゴ礁基金」のホームページが、平成21年7月21日に開設されました。(http://www.strata.jp/sangokikin/)

本基金は、石西礁湖周辺のサンゴ礁を保全・再生するため、「石西礁湖自然再生全体構想」で展開すべき取組に位置づけられた取組を支援するために使われます。



編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 那覇自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課
【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内
【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279
【E-mail】okironc@coremoc.go.jp 【石西礁湖ポータルウェブサイト】<http://sekiseisyouko.com>

石西礁湖自然再生協議会は、豊かなサンゴ礁生態系を取り戻したいという熱い思いを持った、地元住民、市民団体、漁業や観光関係の団体、研究者、行政機関など多様な主体が集まり、平成18年2月に発足し、様々な取組を進めています。

地域委員会(仮称)の 設置が承認されました。

平成21年6月26日、第11回石西礁湖自然再生協議会を石垣市で開催しました。

今回の協議会では、はじめに、前回の協議会で提言のあった「今後の協議会のあり方、協議会委員の活動」について議論するため、全体構想の内容を確認するとともに、現在の協議会委員の活動について報告がありました。その後、吉田総会長代理から、地元住民主体の会議を設け、協議会の活動を推進し、密に情報交換を行うっていく事が提案され、協議会で承認されました。今後は、吉田会長代理をはじめとする地元委員で構成される「地域委員会(仮称)」で、具体的な事業実施に向けた議論を進めていきます。

後半のグループディスカッションでは、陸域対策グループから「石西礁湖自然再生行動指針【陸域対策】」が提出されました。普及啓発グループからは、6つの具体的なプロジェクト案が提案され、今後、メーリングリスト等でやりとりをしながら、発案者を中心に具体化に向けた作業等に取り組んでいくことになりました。また、資金メカニズムグループからは、石西礁湖サンゴ礁基金の運営委員及び監査員が提案され、協議会で承認されました。

赤土流出に対する取組を見学させていただきました。

第11回協議会の翌日の6月27日、協議会メンバー有志(約20人)で、赤土対策を実施されている農家のみなさんのほ場や赤土流出を研究する施設を訪問しました。訪問先は、協議会メンバーの砂川さん、平成20年度石垣市赤土流出防止対策表彰農家の西原さんと大泊さん、国際農林水産業研究センター熱帯・島嶼研究拠点(JIRCAS)の4か所でした。



八重山の農業の現状や赤土流出を防ぐ取組への想いをうかがい、今後の陸域対策を有効に進める手がかりを探しました。



砂川拓也さん
環境に配慮した農法や赤土流出防止は農家にもメリットがあることを説明いただきました。



砂川さんの葉たばこのほ場。
ビニールのマルチングを施した赤土対策を実施されています。



西原茂夫さん
さとうきびを栽培している農地からの赤土流出を月桃のグリーンベルトで防止されています。



大泊孝さん
さとうきびを栽培している農地で葉ガラ梱包ブロックや在来植物を用いたグリーンベルトによる対策を実施されています。



JIRCAS
とうもろこしを植えたほ場からの雨水や土砂の流出を正確に測定し、赤土流出防止のための技術の研究が行われています。



グループディスカッション



会議の様子

協議会の資料・議事概要等は、石西礁湖ポータルウェブサイト(<http://sekiseisyouko.com/>)でご覧いただけます。

毎月第3水曜日は 地域委員会(仮称) です。

月一回タベのひととき、八重山の海の保全について想いを馳せまじょう！



第1回地域委員会の様子

第11回石西礁湖自然再生協議会での提案と承認を受け、原則月1回(毎月第3水曜日)のペースで八重山に住む協議会委員のみならず、地域委員会(仮称)を開催していきます。第1回(7/30)の集まりでは、主に会の設立趣旨や体制について話し合いました。

第2回(8/19)と第3回(9/16)では八重山に住む自分たちが石西礁湖を中心とした地元の海の保全に関して何ができるかアイデアを出し議論を深めました。月一回のタベのひととき、八重山の海の保全について想いを馳せまじょう！

設立趣旨

石西礁湖自然再生協議会は平成18年に設立され、各委員がそれぞれ多岐に渡る活動を実施してきた。さらに八重山に住む委員で構成される「地域委員会(仮称)」を立ち上げ、共有認識や連携感をつくり、実際に動ける機動性を持った体制づくりを図る。

会長及び事務局

会長 吉田 稔

事務局 環境省那覇自然環境事務所石垣自然保護官事務所
(石西礁湖自然再生協議会会長代理、八重山サンゴ礁保全協議会会長)

海の未来・子どもたちの未来を話し合いました



撮影：内藤 明

平成21年3月、第9回海辺の環境教育フォーラムin石垣島～海の未来・子どもたちの未来～(主催：同フォーラム実行委員会)が開催され、多くの石西礁湖自然再生協議会委員も参加しました。全国から集まった参加者と未来を担う子どもたちが、サンゴ礁や地球環境のことなど、普段考えていることや将来への希望、自分たちができることなどを楽しく話し合い、「子どもの海の未来宣言」を発表しました。

「海辺の環境教育フォーラム」ホームページ (<http://interpreter.ne.jp/umibe/>)

